

■はじめに

2020年年初より世界中で猛威をふるっている新型コロナウイルスの流行は、我々普段の生活から国際的レベルでの社会経済に至るまで多大な影響を及ぼしています。青年会議所としての活動も同様に、影響下の中において安全面と経済の再生という難しい選択を迫られてきました。

何気ない日常を失い、誰もが不安の残るこの時世と価値観や新たに迎える時代の変遷を日々より強く感じるようになり、創立当初より受け継がれている創始の精神を今一度奮い立たせて「明るい豊かな社会の実現」を目指すことが必要ではありますが、様々な時代を背景として考えたときにいつでも思うことは「誰のために」という思いでした。

戦後の荒廃期より復興を成し遂げ物量も豊かになり利便性も良くなる中で、過去から現在に至る面と今後どのような未来を描くのかという面において、未熟な私は本当の豊かさを実感することには至りませんでした。しかし、入会当初から青年会議所運動を通じて出会いと気づきを得てからは、豊かさの本質を実感していく自分がいました。その結果「それでいいのか」と常に学ぶ姿勢から現状の変化へと対応していくことが出来ました。

私たちはいつの世も皆移り変わる時代の当事者であり、この変化を生きていかななくてはなりません。一人でこの変化に向かい合うことは利己的な考えも多く本当の豊かさが遠く感じますが、だからこそこれまで以上のより多くの方とのつながりから得られる経験や助けが必要となってきます。あわせて、基本となる価値観を踏み外すことなく時代に即した形で変わり続けるには、先々に起こすべき行動を選択する判断力と今求められている姿を示していく行動力が必要になります。

これからも恵まれた機会に感謝し、そして私自身が誰かの助けとなる。常に現状の維持から更なる向上へと変化を受け入れ、今後の目指すべき「明るい豊かな社会」というものを捉えて行動していくことで本当の豊かさを実感できるものと信じています。

■～求められる態度を継続して示せる組織～

我々は日々の生活から企業の点においても維持向上のため、基盤を固め継続する責任を持っています。また、青年会議所として在籍されている方々は常に定めた目標へ向かい切磋琢磨し、組織として一丸となり目的達成を成しえてきています。

これから生み出すのはモノではなく価値であり、次から次へと特産品や名所が易々と見つかるものでもありません。成すべきことの為に既存の枠組みでは限界を迎えていて、新しい取り組みが必要になることもあります。取り組む以前に歴史を振り返り現在まで残っ

てきたのはなぜなのか理解したうえで物事を考えることが重要となります。過去受け継がれてきた古き良きものまで無理に変化をさせることや他方で成功したケースをそのままモデルとするのではなく、あと一歩時代と地域に沿って踏み込んだ行動をとれるようにすることが必要となってくることでしょう。

現状の維持とこれから進むべき道を切り開くために、過去を学びこれから先も見据える成長をとげること、さらには「押し付け」とならない為にも個々としてではなく同じ志を持つという意味を今一度深く理解して共有できる組織にしていきたいと思います。

■～自意識の変化とそこから形成されるもの～

私たちが生活するうえであらゆる事柄に倫理的に無関心になることはできずだれもが将来への不安を抱えています。それでも他者への想いを持って行動することは自身への豊かさを育むとともに他者と世に豊かさを伝播させることが可能です。青年会議所での経験は普段では得ることが出来ないことが多く、その経験から新たな気づきへと繋がる成長の機会に恵まれてはいますが、自らが積極的な態度を示さない限りは手に入れることもありません。また、課題が複雑化している現在において過去からの延長では対応できずにあの手この手と手段のみ考えることでなく、本質的な目的と対峙して視座していくべきであります。

今日までの教訓がどれほど活かされてきたでしょうか。問題に直面したときにただ過ぎ去るのを待ち、やがていつもの日常へと戻っていく。学ばず変化を恐れることや他を目指すあまりに他を犠牲にしている意味がない。変化する関係性において相反する二者択一での選択をしては片方の否定になってしまいます。どちらへも偏らない気遣いこそが自身への成長であり、止揚し次元高い観点で実現することが新たな価値の創造と社会への必要性とつながっていきます。

■～地域社会の現状と可能性～

生まれ育ったこの石狩の地での環境が当たり前のものとなり特別意識せずに過ごしていくなか、自身の成長に伴い行動の範囲が広がり見える景色も年々変化を感じるようになり、さらには他を知る機会も増えた今においては各地で生活されている方々は何かしらの誇りを持っているように感じられました。海もあって山もあってと聞いたとき、ふと自分の置かれている環境をあらためて見直すと可能性の広がりも感じました。

他の地域で成功を収めた例においてそれはそこでしか提供されない価値のあるものであり、自身に当てはめるときには創造する一人としてそれぞれの地域に合うように展開することで自身のまちから各地への影響を与える価値あるものとなっていくことでしょう。石狩は各地区の豊富で多岐にわたる資源があり、私には自慢できるまちであるからこそ今後も活気溢れるまちであって欲しいと思います。

アプローチの仕方次第では、さらなる可能性を秘めているものや未だ生まれていない未知の可能性の探求へとなり、現状を把握したうえでの新たな可能性を見出し広く波及させることで誇りを確かなものとしてまいります。

■～子ども達への展望～

多感な子ども時分に経験し吸収されたことは様々な発想の原動力となり、大人になるにつれてより確かなものへと形成され成長していきます。豊かになった反面失ったものも少なくはなく、またそれらは必要不可欠なものでもありました。さらには、コロナ禍において集まる場と時間が共に少なくなりオンラインによる対応を見せる中、個々への対処が強まり直接交流する機会が減少しています。

日本人としての思いやりの心が希薄に感じられ犯罪の低年齢化がいまだ改善されず続いている中、大人たちはその時代ごとで育つ環境をつくってきました。もともとある文化と時代ごとの環境が今の子どもたちにどのような影響を与えて、その結果大人へと成長したとき次の世代へどのように反映していくのかを踏まえたうえで、子どもたちに愛情を注ぎ将来を想うことは健全な成長を見せることでしょう。また、直接対峙して交流することをより強くすることでこそ人の思いに触れることが出来ますし、一方的なやり取りになることもなくその後の成長が今後を思いやれる思考へ向かうことでしょう。

石狩を担う子ども達が、変化し続ける時代の中で更なる豊かさをこれからも感じてもらうためにも、たくさんの出会いからより多くの経験を育むことができる青少年事業を開催し、それぞれの誇りのもと自分らの子へと受け継がれていける運動を展開してまいります。

■～会員の拡大～

会員数の減少は将来組織としての活動に支障をきたし年々減少の傾向にある中、たとえ小規模になろうとも持続可能な地域づくりを継続するためには、闇雲に増やしていくのではなく所属したからには自分自身の価値を高めてもらい、それが新たな人を惹き寄せるようにメンバーを変化させる契機とすることが重要であります。

志と目的が共通しているはずの我々が近隣の青年会議所が行っていることさえ知らないことも多く、各地課題の解決へと地域のために事業が行われていますが、どこで成功と失敗の結果が残るかは分からず財産ともいえるこれまでの事業を共有する意識が必要であります。また、信頼され頼れる組織となるべきで、それはつまりそのような組織は共感を得ていることとなります。青年会議所とのつながりが期待に溢れ意識の共有が共感を呼ぶ拡がりを見せていくことこそ必要であります。

硬直した組織が弊害を生じさせることも直視せねばならず、以前よりメンバーを前向きに変えてきました。しかし、同時に疲弊し消耗したことも否めません。新たな世代を事業に無理なく巻き込み、運動の発信と会員の拡大が同時に進む仕組みの構築こそ自然な流れで

あり本質的な大義は胸を張り続けることも可能であると考えます。

■おわりに

私という存在が形成されたのもこの石狩での生活がすべて

この土地で親のもと育ち、仲間の存在出会いを通じ、そこから得た知識や経験をもとに日々生活を送っていくことに不安もなく充実した気持ちで満たされております。

この素晴らしい感情をより多くの方へ感じていただくためにも自分自身でまちを良くしていく想いとやりきる強さを持ち、想定外の事態にも対応する柔軟性をもっていかなければなりません。そして不確実な未来に備えるためにもそれらの想いを引き継いでいくことが重要であり、石狩青年会議所が創立以来より様々な形でその想いを表現してこられました。

私自身、第39代の理事長として仰せつかりさらなる成長と気づきを得る機会に恵まれ、石狩青年会議所の歴史を受け継ぐ一人として今後携わる方々へと伝えていくことが出来ることは喜びであり、且つ過去からのこの想いが繋がった姿は明るいものでしょう。

すべての出会いに感謝し、これから出会うひとりひとりにこの誇りが生まれることを願い邁進してまいります。

2021年度 石狩青年会議所スローガン

一心新進

<基本方針>

- 1 求められる態度を示せる組織の形成
- 2 地域社会の可能性を探る事業
- 3 子ども達の育成事業
- 4 自己の意識向上と他との調和
- 5 会員拡大活動